

◆1人じゃない、と伝えたい
～クリスマスカードを贈る取り組み



いわて生協
けせんコープ組合員理事
飯塚 郁子さん

けせん地区では、被災し、仮設住宅に暮らす方以外にも、さまざまな事情があり避難所を早くに出てアパートや貸家に住んでいる方も多くいます。また、なんとか自宅は残ったものの支援を受けられずにいる方や、失業した方、体調を崩した方や、これから生きていくことをどう受け止めればいいのかを不安げに話す高齢の方もいます。

こうした方々に少しでも元気になってほしい。生きることができたことを決して悲観してほしくない。あなたは一人じゃない、誰かがあなたを見守っている事を伝えることができたらいと思い、「クリスマスカードを贈る取り組み」をお願いすることになりました。

多くの方は、被災地支援イコール仮設住宅への支援と思われるかもしれませんが、仮設住宅以外の方もあの日からの苦しみに耐えています。どうか、この状況をご理解いただき、仮設住宅以外の組合員にも心の支援をいただけたら幸いです。

(コープあいちに宛てた手紙より抜粋)

クリスマスカードに思いをのせて

コープあいちでは、「被災された組合員の方へクリスマスカードを贈る取り組み」を行なっています。

この取り組みは、いわて生協けせんコープ組合員理事の飯塚郁子さんが、コープあいちに協力を依頼したものです(左欄参照)。

「年賀状は今年亡くなった方が多いので出す事が出来ないけど、クリスマスカードなら出せる」と、いわて生協けせんコープのこ～ぷ委員が話し合い、急きよ行なうこととなりました。

今回の取り組みでは、「仮設住宅に住んでいない私にも、見守ってくれる人がいる」と感じてもらえることを大切にしたいとのことです。

コープあいちでは、カードを募集し、合計 5,536 枚(12月14日現在)が集まりました。このクリスマスカードは、岩手県陸前高田市、大船渡市、住田町の共同購入(宅配)利用組合員、仮設住宅の皆さんへお届けします。



1つ1つのカードに工夫が凝らされている。



カードは、けせんコープの組合員を含めた83人で折った鶴を添えて届けられる。

被害を受けた方々のため、役立ちたい



「せいきょう便来たよー」と近所に声をかけに行く人も。



買い物に来た子どもと一緒に商品を選ぶ大宮さん(写真奥)。

コープふくしまでは、生鮮品や食料品を積んで毎週決まったコースを巡回する移動店舗「せいきょう便」の運行を11月16日からスタートさせました。車両は、ならコープから復興支援として寄贈されたもので、運営ノウハウは生協共立社(山形県)とみやぎ生協から提供されています。

現在は月曜日から金曜日まで1日6カ所、浪江町、双葉町、飯舘村から避難された方々が住む仮設住宅を中心に巡回しています。コープふくしま店舗部の大宮満夫さんは「もっと停車ポイントを増やして、できるだけ多くの人役に立ちたいです」と力強く言います。また、同生協店舗部の藤田良二さんは、「仮設住宅では個々が孤立しがちだと聞きます。『せいきょう便』が来る時に会える人がいて、コミュニケーションの場をつくることは、生協ができる復興支援の1つなのかもしれません」と話していました。